

因島高校を支援する会

発行 支会
因島 高 校
支 援 会
会 長 竹 中 啓 修
題 字 竹 中 啓 修

宮地康福新教育長に聞く

この度、因島市教育委員会教育長に就任された宮地康福教育長を、因島高校PTA村上正則会長（因島高校を支援する会副会長）が訪ねて、因島の子どもの教育について伺いました。



宮地康福教育長

義務教育の学力が低下している」と聞きますが、

「最近の者は、間違った漢字を書くことも多いし、作文力も低下している。」と聞きますが、九九がわからなかったり、つり銭の計算のできない子が、そのまま進級・進学してきた現実はありません。幼少年期に必要な読み書きや計算の学習ができていないのです。

むかしは、スバルタ教育もありましたが、何が何でも覚えるんだという気持ちで子どももついてきていました。

今後基礎学力の向上と心を豊かにする教育がもっと必要だと考えています。

文部省の是正指導がありました。因島市ではどうい

対応でしたか。

広島県は、平成十年五月に文部省から是正指導を受けましたが、その理由は、(一)公教育に運動やイデオロギーが入り込んだ。(二)校長が責任ある学校経営ができなくなり、法規則を逸脱し、公開に耐えない状況になったからです。

是正の結果、因島では、次のような変化があったと思われま

まず第一に、平成十三年度の秋の運動会、体育祭で国旗の掲揚ができたことです。

次に、市内小中学校のすべてで学力テストが実施され、その結果、指導力の向上や資質の高揚に先生方が自覚を始めたことです。

それから、教育センター、中央研修、企業研修、大学研修に挑戦する教師が現れ始めたことです。教師はもっとプロ意識をもって臨むことが求められています。教師の力量をつけるために、一層研修を積んでほしいと思います。

今、子どもと先生は友達感覚です。教師の威厳や熱意を取り戻して欲しいですね。

先日、学校の文化祭を見に行きましたが、劇の発表など

も地元中学卒業生の流出という問題を抱えながら、いかにして高校の実績と魅力を高めるか、頑張っている高校です。地元も、活性化に大きく関係することから、地域をあげて支援し、各町村が一部研修費を助成しています。

因島市長は、「因島で一つの高校を市も一体となって育てよう」と力強く答えてくださり、同席した面々は意を強くしました。

研修先については、因島市とよく似たオーストラリア、

をみると教員の指導をいかに入れるかにより、大きく変わると思いました。「教えることと育むこと」を、もっと見極めていくことが大切です。

国の三年間の是正指導は昨年度で終わり、今後は因島市独自の是正目標を作って、教育改革を推進していきたいと考えています。

授業参観に行きましたら、先生が黒板に書くだけで、子どもは黙々とそれを写しているという、「コミュニケーション」の少ない授業が有りました

もつとわかる授業を創造するために、教師も教え方を工夫し、内容の研究をしないと

好きになる。「おかあちゃん、九九がわかったよ。」と、家に帰るなり嬉しそうに話す、そういう感動的な授業がほしいですね。

また、学力診断テストを機に各小中学校では、学力向上対策委員会のようなプロジェクトをスタートさせ指導課題を明確にしながら、「朝読書」と「放課後のドリル学習」夏冬休みの補習等を始めてきています。

また、「市内一斉」でも参観日を実施しましたが、これからは小中高の参観日を全市民にオープンにしたらどうでしょうか。

高校の参観日へ行かせてもらいましたが、校種を越えて参観すると気づかされるものが多くあります。小中学校の参観日も最近では町内の回覧板でご案内するようになってきています。町の人も関心をもち、力を貸していただき

PTAに対して、期待するものは何ですか。

PTAの活動をして何か高まるものがほしい。例えば幼稚園の保護者は集まって子どものために、知恵を出しあいながら、紙芝居を作ったり、文化祭の準備をしたりしている。

因島高校では、支援する会

最近、因島高校の頑張り

電話ください。直接話しに行きますよ。」と言って因島高校の先生が、高校生活や総合学科の授業について中学

お忙しい中ありがとうございます。因島の教育環境向上のために一層のご活躍をお祈りしています。

また、「因島地区公立学校校長会連合会」が立ちあがりましたが、本市では三年前から小中高が協力しながら取り組みを進めてきました。学力も生徒指導も指導の一本化が図れればきっといい方向に進んでいくと確信しています。

ご意見・ご要望をお待ちしています。下記までご連絡下さい。

入会のご案内

みなさんのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。入会及び入会金の受付は下記へご連絡下さい。

庄原格致高校高野山分校 海外研修 (ニュージーランド小学校訪問、児童と交流)



宮地教育長と村上PTA会長



学級編成に関する要望書提出

(特別進学クラスなど)

現在、因島高校では、総合学科制度により、学力面そして進路面において、幅広い生徒を受け入れております。

その様な生徒の希望を叶え、多様な進路を実現していくには、生徒の学習意欲の喚起が何より必要となります

が、そのためにも一人ひとりの進路に見合った授業展開を、真剣に考え実現していかなくてはなりません。

この度、因島高校を支援する会・因島高校同窓会・因島高校PTA・因島市内小中学校PTAそして因島青年会議所が、桶東愛生校長に、各生徒の進路に見合った授業展開を効果的に実現して頂くため習熟度を加味した進路別(特別進学クラスなど)の学級編成」を実現していただくよう要望書を提出いたしました。

が活躍してサテライン講座の導入をして成果をあげている。小中学校も様々な取り組みをしている。

このように、もっとみなさんの教育力をいただきながら学校創りに関わってほしいですね。

来年度から学校評議委員制度も発足させようと思っております。週休二日制もはじまることですが、これからはみんないっしょに考えようということですよ。

また、「因島地区公立学校校長会連合会」が立ちあがりましたが、本市では三年前から小中高が協力しながら取り組みを進めてきました。学力も生徒指導も指導の一本化が図れればきっといい方向に進んでいくと確信しています。

お忙しい中ありがとうございます。因島の教育環境向上のために一層のご活躍をお祈りしています。

ご意見・ご要望をお待ちしています。下記までご連絡下さい。

入会のご案内

みなさんのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。入会及び入会金の受付は下記へご連絡下さい。

因島高校PTA事務局

重井校舎(赤畑教頭) ☎08452-4-1281

土生校舎(藤本教頭) ☎08452-2-2133



因島高校 朝礼

ご意見・ご要望をお待ちしています。下記までご連絡下さい。
入会のご案内
みなさんのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。入会及び入会金の受付は下記へご連絡下さい。
因島高校PTA事務局
重井校舎(赤畑教頭) ☎08452-4-1281
土生校舎(藤本教頭) ☎08452-2-2133

市内一斉に学力テスト実施 取り組みについて重井中に伺う

今年六月、市内の十二小・中学校は全学年一斉に「学力診断テスト」を実施しました。昨年の一部の学年の実施に引き続いての実施です。

各学校は、そのデータをもとに学力の実態を客観的に把握して、子ども達の学力充実に向けての具体的な取り組みを検討されていると伺います。今回は重井中学校(石畑晴章校長 生徒数二二二人)を訪ね、その取り組みについて伺ってまいりました。

学校(教師)は

生徒の学力向上に責任がある

重井中学校では、十一月七日に持たれた保護者懇談会・進路説明会において、「子どもに確かな学力がついているのか」「どの位知っているのか」「等の学力の実態を知ることが必要であり、生徒の学力向上に対して、学校や教師一人一人にも責任がある。そのため、学校は指導方法の研究をしたり、学習会(補習)等もしたい。ぜひ、家庭でも基本的な生活習慣の確立等で、協力してほしい。」と話をしました。

また、今回の学力診断テストを、各学年・教科担任ごとに学力の実態(現状を把握)して領域や分野ごとに全国の標準通過率との比較から課題を抽出し、



重井中学校 石畑校長

その中身は、英語・数学・国語の標準偏差値の点分布を明示して、「あなたのお子さんの位置はどこにあるのか」等を理解してもらい、家庭学習への具体的な働きかけ等の参考にして欲しいという家庭への注文もありました。

石畑校長は、「来年度もよく感じました。学校があるべき姿に向かっている。本格的に動き始めた時に、私達をあたたく、かつ、力強く支えてくださっていた宏さんが亡くなられたことは、本当に残念です。

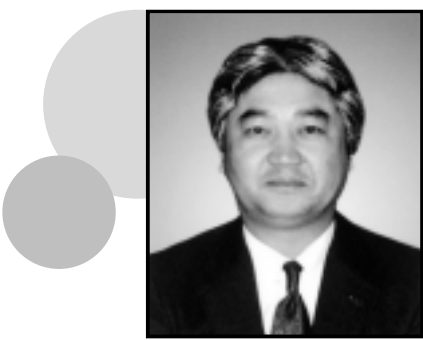
因島市土生小学校長 村田 積穂

土生小学校PTA会長・市P連会長である村田宏さんの急逝に接し、今もなお、ショックと残念な気持ちでいっぱいです。

広島県教育が文部省正指導を受けている中、二年余りに土生小学校へ転勤となつた私は、以来、村田宏さんと、機会あることに教育や正指導・PTA活動について話し合うことが多々ありました。宏さんは、いつも基本的なスタンスとして、「当たり前」のことに当たり前にやることは、当然必要である。しかし、現状に甘えるだけでは、前に進まない。見直しを持った計画と改革がいる。」と話されていました。子どもたちの未来のために、教育やPTAのあるべき姿をこの上なく熱心に語り、少しでも現状を変えていこうという熱い思いを強く感じました。

故因島市PTA連合会長 村上宏さんを偲んで

去る十月二十八日、因島市PTA連合会村田宏会長(土生小学校PTA会長)が、病のため、四十九才で急逝されました。因島高校を支援する会設立時、常任幹事として本会の活動を支えてくれ、また、PTA活動、子ども教育に関して並々ならぬ情熱を燃やしていただけに非常に残念です。



後任には、岡野長寿市P連会長代行(田熊中学校PTA会長)が選任され、「村上宏会長の遺志を継いで、がんばりましょう。」と決意を述べられました。

生前かかわりの深かったお二人にその思いをよせていただきました。

力診断テストを実施して、どこまで向上させることができたのかを検証します。「生徒の学力を高め、将来の幅広い進路選択ができる力をつけていくことが教師の責任であり、楽しくて力のつく授業を創造しなければならぬ。」

「教師が生徒一人一人の課題を的確に把握し、常に少し上の目標を提示することで、やる気を持たせることができると、生徒も自分で解決できると、大きな自信を持ちます。そのようにしながら、生徒に力をつけさせていくことが大切なのは、「学校が評価を受ける」ということは、教師が評価を受けるということだ。そのことを教職員一人一人が自覚しなくてはならない。」と力説されていました。

一例として、生徒に原稿を持たせずに挨拶や発表をさせることをはじめ、学校行事や

その中身は、英語・数学・国語の標準偏差値の点分布を明示して、「あなたのお子さんの位置はどこにあるのか」等を理解してもらい、家庭学習への具体的な働きかけ等の参考にして欲しいという家庭への注文もありました。

石畑校長は、「来年度もよく感じました。学校があるべき姿に向かっている。本格的に動き始めた時に、私達をあたたく、かつ、力強く支えてくださっていた宏さんが亡くなられたことは、本当に残念です。

宏さんの教育やPTAに対する熱い思いを、そしてまなざしをいつも心に刻みながら、今後より一層頑張りたいと思います。

因島市PTA連合会 副会長 楠見 由活

昨春秋、「楠見さん、悪いものが肝臓に見つかったんだよ。」少し辛そうな表情で宏さんは私に話しをされました。

市P連で、子ども達の為に少しでも教育環境が良くなるように頑張ろうと語り、因島高校PTAの村上正則会長や竹中同窓会長や仲間が集まって、因島高校を支援する会を進めていく中で、島に一つしかない高校を魅力溢れる高校にするように活動しようやと、熱く語り合っている時期でした。

今年の春には、お医者さんが大丈夫じゃと言ってくれたからと市P連会長に就かれ、会をまとめてこられました。今の内に出来ることは何でもやるよと、大変エネルギーに私達をぐいぐいと引っ張り、まさに命懸けで発言し行

市内一斉でも参観日実施

十一月一日、市内の各小学校(保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校)は、保護者だけでなく市民を対象に、市内一斉でも参観日を実施しました。

主催は、因島市教育委員会、因島地区公立学校校長会連合会、因島高校PTA、因島市PTA連合会、後援は因島市、因島高校を支援する会でした。

これは広島県が、教育の充実と発展を図るため十一月一日を「ひろしま教育の日」と

十一月一日、市内の各小学校(保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校)は、保護者だけでなく市民を対象に、市内一斉でも参観日を実施しました。

この日を前に因島高校PTAと因島市P連は、教育委員会とともに、土生町商店街に買物客にピラを配布し、市民の参観を呼びかけました。

重井校舎正門にて 生活指導

因島高校では、生活面や校則面での生徒指導を徹底するために、特に重井校舎正門で生徒が登校する際点検を実施しています。

入学時は緊張感もありましたが、学年を上がるにつれ、緊張もとけ、服装や学習規律が守られなくなつたため、学校とPTAが協議して指導を徹底することになりました。

PTAも、校門での挨拶運動を行い、積極的に学校に協力しています。また、家庭での躰指導の必要性も訴えています。

因島高校野球部に「保護者会」が誕生しました。

クラブの指導や試合への引率等、因島高校の先生方に大変お世話になっていますが、保護者でできることはないだろうかというところで、クラブ活動の強化発展を支援補助し、学校と生徒を守り育てることの一助になることを願い設立されました。

員もお互い他の学校を訪ね、「いい勉強になりました。」と感想がありました。

因島高校では、来春の入試を控えた中学三年生の保護者を対象に、進路相談会を実施しました。



因島高校 参観日

制定し、十一月一日から七日を「学校へ行こう週間」に定め、「新たな教育県ひろしま」を創造すべく教育改革に取り組みすることになりましたが、その一環としての因島市での取り組みの一つです。

おかげで当日は、保護者のみならず、市民が参観し各学校ともにぎわいました。教職員は「親子の会話の少ない年代ですが、クラブの試合の引率を手伝ったり、試合を応援するなど子ども達と時間を共有しているうちに、「ミニユニケーション」もはかれました。」と、話していました。

現在部員は、二年生二十一名ですが、練習を積んで強くなつて、因島高校の名をとどろかしてほしいものです。

市民の投書箱

ふるさとを愛する心の教育を

今は大変な不況です。因島においても雇用の場が少なく、今後若者が定着するためには、雇用確保が重要と言われています。

私はそれに加えて、「ふるさとを愛する心」を子どもたちに、植え付けていくことが大切だと思います。ただ、因島に働くところがあるから帰って来ようというのではなく、因島が好きだから帰って来ようと思つてほしいのです。そういう因島を愛する若者が増えてほしいのです。

人から与えられるのではなく、また、人にしてもらおう

私方の息子は、学校でクラブをしています。試合に負けてもあまり悔しいというふうでもなく、試合でぜひレギュラーになりたいと必死で努力するふうでもありません。情けないです。

小さい頃から、学校で一生懸命走って一番になつても誉められるでもなし、がんばってやってみるとケツをたたかれたでもなし、「みんな、そこそこやっつけよ。」「みんな、いっしょ。」という方針が染み付いてしまつたのでしよう。

社会に出たら通用しませぬ。学校でも、もっとがんばること・努力すること・達成することの喜びを教えてやってください。

(土生町・高校保護者)